econo ひょうご

旭光電機
（神戸市兵庫区）

社会課題 センサーで解決

自動ドアの開閉を制御する装置を1956年に日本で初めて開発し、さらには鉄道のブレーキコントロールや船舶の操縦装置の生産にも携わる。あらゆる情報をセンサーを通して数値化する技術力は国内トップクラスを誇る。

旭光電機が開発したビルのフロント向け自動ドア用センサーは多くの建物で採用され、東海道・山陽新幹線の通路にある自動ドアのセンサーは国内シェア（占有率）100％という。微細な物体や複雑な地形を高い解像度で捉える「高分解能光学センサー」を開発し、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の人工衛星に搭載されたこともある。

「世の中にある課題のほとんどはセンサーで解決できると本気で考えている」。同社の和田貴志社長(64)は自信を見せる。

同社の技術部に在籍していた86年、赤外線を床面に照射し、人が立った時の光量変化を感知する近赤外線センサーを開発して自動ドアの性能を大きく向上させた。高い品質と信頼性が求められる社会基盤の分野で培ったセンサーの技術を防災や防犯、福祉など多方面に応用することで社会に貢献している。

事業経営の多角化に乗り出す転機となったのは新型コロナウイルス禍。従来は相手先ブランドによる生産（OEM）で売り上げを伸ばしたが、行動制限や外出自粛で鉄道やビルの利用頻度が減った影響を大きく受け、特定の事業に依存するリスクを思い知らされた。

それからは新たなプロジェクトに次々と挑戦した。風呂での溺水事故をなくす「浴室用見守りセンサー」、川の浸水状況をリアルタイムで把握する監視システム、空き家に複数のセンサーを設置して室内や設備の状態を遠隔で見守る管理システムなどを生み出し、事業の本格化に向けて準備を進める。

特に注力しているのが、来訪者の性別や年齢、服装などをデータにして、滞留や通過といった動作の傾向を分析する「次世代エントランス監視システム」だ。

入り口に設置したカメラで撮った映像を人工知能（AI）で解析し、人流や行動パターンを把握する仕組みで、昨年12月から今年3月まで神戸市中央区内のビルで実証実験して機能を検証した。今後はマンションの入居者らに続いてオートロックの扉をすり抜ける「共連れ」侵入を抑止できるような仕様にするなど、画像認識の精度を高めて実装を目指すという。

「日常に潜む見えない課題をセンサーの力で可視化し、安全で快適な社会をつくりあげていく」。和田社長は力を込めた。

（村越洋平）

上「センサー技術を応用した新事業のアイデアを常に考えている」と話す和田社長（神戸市兵庫区で）
下次世代エントランス監視システムのモニターを確認する社員（神戸市中央区で）

メモ　1947年にラジオの修理販売所として創業。現在は神戸市兵庫区に本社を構え、明石市内で2工場を操業している。従業員数225人（2025年9月末現在）。25年11月期の売上高は69・6億円。28年には売上高100億円を目標とする。社会基盤に関わる製品以外にも、ボタンを押すだけで上手に生ビールが注げて、泡の噴き出しも防げるビールサーバー用の機器を飲料会社と共同開発するなど、センサーを生かしたユニークな製品も手がける。

赤ちゃんの写真 募集
3歳まで、最寄りのYCへ
赤ちゃんの写真を掲載します。申し込みは、最寄りの読売新聞販売店（YC＝読売センター）へ。
掲載は、お子様1人につき1回限りで、3歳（掲載時）まで。YCにある申込書に、▽赤ちゃんのお名前（ふりがな）▽生年月
者名▽メッセ
▽メッセージ
柄とお名前▽